



就任の言葉

会長 田中茂美

戦後十四年、わが国の諸産業もついに戦前を遙かに凌駕する生産に達するに至りました。それとともに、陸海空の輸送は激増を来し、鉄道、道路、港湾、空港の整備は刻下の急務となつて参りましたし、国土保全のための防災工事の実施はますます重大さを加え、水力発電事業の続行など、今日の土木事業界はまれに見る活況を呈しているのです。しかしながら、これを最近の炊米の実状に比べますと、まだいわゆる雲泥の差が存するのであります。全く今後に残された問題と申さねばなりません。

そもそも土木の仕事は、大部分が公共的の事業でありまして、その計画から工事の完成までに相当の日時を要するのが普通であります。従来のようなスピードでは、とてい他の各産業の発達に追いつかないことは明らかでありまして、ここ数年間に急速なる土木事業の完遂が要望されているわけであります。

土木事業が一般に公共的の事業であるということがらは、土木技術者であるわれわれにとつて、他の私企業的の事業にたずさわる技術者と異なつた特別な自覚と責任とを覚えさせるものであります。それは土木事業の計画面に特に強く現われるのであります。すなわち土木事業の計画は、自然の国土、国民の居住、産業の分布などの複雑なる条件の上に立つて国家公共の福祉のための最善の施設を実現しようとするものでありまして、計画の科学的樹立、完璧なる設計施工によつて、狭小なる国土が最大限に活用されるからであります。

このような計画の樹立は、それ自体非常に複雑なものである上に、とかくの障害につき当るものであります。国家百年の大計を樹立するという理想を堅持することが、これにたずさわる技術者にとつて最も大切な心がまえと思ひます。

土木学会は、わが国における土木技術者の権威ある一大団体でありまして、全会員の知識の向上、内外情報の交換、会員相互の親睦のために大いに貢献しなければなりません。このたび、不肖私は会長の重責を負わせられることになり、力の不足を痛感致すものであります。学会の果すべき重大なる任務にかんがみ、最善をつくしたいと考えております。どうぞ会員諸氏の全幅の御協力をお願い申上げる次第であります。